

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	0
施設名	MIWAたばた保育園
施設所在地	東京都北区田端5-11-8
法人名	社会福祉法人みわの会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

・空気や光、植物などの身近な自然に触れながら、匂い・あじ・色・感触といった五感を使った活動を行うことで、子どもたちが自然の不思議さや楽しさを感じられると考えました。体験を通して気づきや発見を広げることを目的に、このテーマを設定しました。

## 2. 活動スケジュール

1歳児(活動内容・時間・人数)	3・4・5歳児(活動内容・時間・人数)
①植物から生まれるアート・60分程度・14名	ミントグループ①空気を描く・90分程度・12名
②大きな紙に描く・60分程度・15名	②空気の形を作る・90分程度・12名
③葉っぱのかくれんぼ・60分程度・13名	③みんなで描く・90分程度・11名
④自然と年度・60分程度・14名	④香りを描く・90分程度・10名
⑤色で遊ぶ・60分程度・15名	⑤温冷を描く・90分程度・11名
2歳児(活動内容・時間・人数)	⑥空気を感じて描く・90分程度・13名
①光で遊ぶ1回目・60分程度・13名	⑦色であそぶ・キャンドルホルダーを描く・90分程度・8名
②光で遊ぶ2回目・60分程度・16名	⑧演奏するように描く・90分程度・12名
③自然の光で遊ぶ・90分程度・14名	レモングループ①シャボン玉を描く・90分程度・14名
④光で遊ぶ3回目・90分程度・13名	②シャボン玉で描く・90分程度・15名
⑤光で遊ぶ4回目・90分程度・16名	③色で遊ぶ1回目・90分程度・13名
⑥光で遊ぶ5回目・90分程度・14名	④色で遊ぶ2回目・90分程度・13名
⑦色で遊ぶ・道具で遊ぶ・90分程度・14名	⑤色で遊ぶ3回目・90分程度・16名
⑧色で遊ぶ・光で遊ぶ1回目・90分程度・15名	⑥色で遊ぶ4回目・90分程度・16名
⑨色で遊ぶ・光で遊ぶ2回目・90分程度・15名	⑦色であそぶ・キャンドルホルダーを描く・90分程度・11名
⑩色で遊ぶ・光で遊ぶ3回目・90分程度・11名	⑧色で遊ぶ・キラキラオブジェ・90分程度・16名
	ローズグループ①オールドロップを作る・90分程度・14名
	②色水で描く・90分程度・13名
	③色々な素材の色水で描く・90分程度・13名
	④見ないで描く・90分程度・14名
	⑤色と形の組み合わせ・オブジェ・90分程度・13名
	⑥色であそぶ・キャンドルホルダーを描く・90分程度・9名
	⑦色のアラベスク・90分程度・13名

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

セロハン・絵の具・透明シート・マジックペン・懐中電灯・水・透明ボトル・カラーインク・ぷよぷよボール・障子紙・オイルパステル・シール・養生テープ・ライトテーブル・Kクレイ粘土・のり付きパネル・水墨画用紙・粘着透明板・グロスポリマーメデュウム・タコ糸・アルミホイル・金ジュッソ・iPad

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

・室内に限らず戸外も活用し、風・光・空・影・風景など自然から得られる要素を取り入れながら表現活動を行う。活動の中で子どもたちが発信した言葉や行動を次回の活動に生かすことで、探究活動をさらに深められるようにする。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

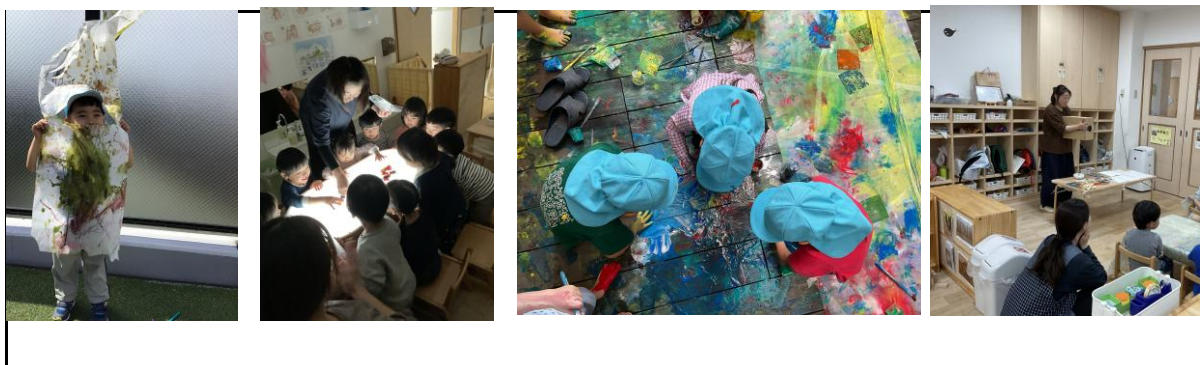
・自然物の素材に触れる中で、こども達は表情豊かに喜びを示していた。そこに加わる色についても、大人が用意した色ではなく、自分達で作りに出した色を用いて表現する遊びを楽しむ姿が見られた。保育者はこども達の気づきや試みを受け止めながら、素材や色の変化をとらえ、表現する楽しさを共有した。(1歳児)

・屋上で活動することで、風・光・空・影・風景など、自然から受け取るさまざまな要素に気づく姿が見られた。こども達は周囲の変化に目を向け、自然に目を向ける経験が広がるように関わった。(2歳児)

・画材を見て、「使いたい」「使ってみよう」と感じたものを自分で選び、それぞれが描きたい場所や取り組みたい場所を探して活動する姿が見られた。保育者はこども達の選択を尊重しながら見守り、必要に応じて声をかけることで、一人一人が主体的に表現活動に取り組めるよう関わった。(3・4・5歳児)

・「空気とは何だろう」というこども達の疑問をきっかけに、空気を触ってみる、空気の中に入る感覚を味わう、匂いを感じるなどの体験が広がっていった。保育者はこども達の言葉に耳を傾けながら、その不思議さに共に向き合い、感じたことを言葉にしたり試したりできるよう関わることで、こども達の探究心を深めていった。

(3・4・5歳児)



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

・一人一人のこどもが自分の遊びの世界に没頭する時間と、友達同士で遊びを共有する時間とを行き来しながら活動する姿が見られた。大人とこどもの関わりよりも、こども同士の関わりや遊びの展開が活発であり、互いの「面白い」「楽しい」と感じる表現に触れることで、それぞれが刺激を受け、自分の表現に取り入れたり共有したりする姿が見られた。こうした関わりの広がりや、表現活動の広がりにもつながっていることを実感した。

また、わずかな環境の変化や環境設定の違いによって、こども達の遊びは深まり、広がり、展開していくことを改めて学んだ。こども達の主体的な遊びが生まれるよう、環境の在り方や関わり方を丁寧に考えていくことの大切さを感じた。

・公園（屋外）という環境では、自然がこども達に多様な刺激を与えている。光と影の変化、空に流れる雲、風の動き、乗り物の音など、刻々と変化する環境が制作活動の中で新たな発想を生み出すきっかけとなっていると感じた。保育者が制作のヒントや言葉かけを多く行わなくても、周囲にある人工物や自然物からの刺激をこども達は感覚的に受け取り、それぞれのタイミング表現へとつなげている姿が見られた。

屋外という自然環境での表現活動は、こども達の心を動かす大きな素材となっていると感じた。色の選び方や描く線、タッチにも、のびのびとしたしなやかな表現がみられた。こども達は、選択と展開を繰り返す中で自然との関わりを楽しみながら表現活動を行っているように感じられた。

今回の活動を通して、こども達の気づきや興味を丁寧に受け止めながら、自然環境を生かした表現活動を今後の探究へとつなげていくことの重要性を学んだ。